

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(明和町) の概要

11月18日(日)に明和町で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、明和町特産品振興連絡協議会の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 明和町の特産品の紹介、宣伝と販路拡大に取り組んでいる。具体的には、物産展への参画や県主催のメディア交流会等へ参加し、PRを行っている。
- 協議会は、明和町観光協会、明和町商工会、財団法人国史跡斎宮跡保存協会及び斎宮歴史博物館で構成している。
- 平成 26 年度に完成予定の東部復元建物完成時に増加が予想される観光客の町内での滞留時間の延長や来場頻度の増加に向け協議会としてのお土産品の開発に向け検討している。

明和町には、ひじき屋が7軒あるので特産ひじきを使って何かできないかということでひじきうどんを作った。

(国史跡齋王跡休憩所では、) 予約制であるが、齋王の食事を復元した齋王弁当もある。ご当地ソングなどの展開も行い、PRを行っているが、明和町には、宿泊施設がない。

齋宮には年配の方が、多く来られる。

齋宮と伊勢神宮につながりもあり、明和町は、伊勢とのつながりが強い。明和町は、行政区域は松阪であるが、観光は伊勢と同じ区域に入りたい。式年遷宮までに明和町をPRしたい。

商品を充実させることでお客様をおもてなししていきたいと考えているが、平成26年までの時間も限られており、商品開発などを実践することが課題である。

十二単の装束体験が一番の人気である。修理代も100万円程かかるので、十二単については平成26年度に向け、もう一着準備したいと思うが費用は300万円かかる。

国史跡の齋宮跡なので規制が多く、広大な面積に多くの方にきていただくための施設も造れない。楽しめる遺跡にしていきたい。



明和町特産のひじきを使用した
ひじきうどんを試食させていただきました。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

観光産品、土産もののPRの仕方が薄く、広くであれば、消費者にはなかなか伝わらない。全国的にPRするためには、ストーリー性がないと競争力がない。先日、16カ国の在日大使館の大使夫妻に三重県にお越しいただき、県内各地を視察いただいた。奥様には、おみやげとして松阪木綿のがま口をプレゼントしたが、大変喜んでいただいた。私は、「松阪木綿は、江戸時代版のユニクロ」と色々ところで説明している。

26年の東部復元建物整備に向けてお土産などの展開を考えてみえるとのことであるが、徹底的に齋王に絡めてみるのを検討されてはどうか。

食べ物は、特にうんちくがあるといい。ストーリー探しに皆さんで知恵をだされてはどうか。観光では、ターゲットをどの層にするかが重要である。

明和町の行政区域は変えられないが、明和町が良ければ観光キャンペーンの地域部会について、明和町を伊勢志摩と同じ地域部会とすることも検討したい。

十二単の購入は、行政が補助することでしかお金が出せないのか、他に方法がないのか、一番効果があるのかを議論する必要がある。一番の優先順位は何かを町とも議論していかなければならない。

具体的な取組を行いたい、それを妨げている具体的な規制についてリストアップして教えて欲しい。それに基づいて特区制度の活用も検討していきたい。事務的に聞かせていただきたい。



【明和町特産品振興連絡協議会とは】

明和町の特産品の紹介・宣伝と販路拡大を促進するとともに、地場産業の振興育成を図り、合わせて明和町の活性化に寄与することを目的として物産展への参画やPR活動に取り組まれています。

協議会は、明和町観光協会、明和町商工会、財団法人国史跡齋宮跡保存協会、齋宮歴史博物館で構成しています。